

平成28年度 第2回 三重県総合教育会議

- 1 日 時：平成28年7月25日（月） 10:00～11:30
- 2 場 所：J A三重ビル 5階 大会議室
- 3 出席者：三重県知事、三重県教育委員会（5名）
三重県教育委員会特別顧問、
ジュニア・サミット日本代表（私立東海高等学校2年生）
事務局＜戦略企画部＞
部長、副部長兼ひとづくり政策総括監、戦略企画総務課長
＜教育委員会事務局＞
副教育長、次長（教職員担当）兼総括市町教育支援・人事監、
次長（学校教育担当）、次長（育成支援・社会教育担当）、
次長（研修担当）、教育総務課長、教育政策課長、高校教育課長、
小中学校教育課長

ほか

4 質 疑

◆戦略企画部長

ただ今から平成28年度第2回三重県総合教育会議を開催します。今回から司会を務めます、戦略企画部長の西城です。どうぞよろしくお願ひします。

それでは、開催にあたりまして、鈴木知事にご挨拶をお願ひします。

●鈴木知事

本日は、大変お忙しい中、今年度第2回の総合教育会議にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

今日の議題は伊勢志摩サミットの成果の次世代への継承ということです。5月26、27日に開催されました伊勢志摩サミットは、県民のみなさんのおかげで無事に大成功に終わることができました。これを人づくり、教育という側面から次世代に継承していきたい、しっかりとサミットのレガシーを残していきたいという思いで、委員のみなさんにご議論賜りたいと思っています。

とりわけ今日は、上堀内陸王（かみほりうち・りくおう）君が来てくれていますが、4月に行われたジュニア・サミットにおきましても、日本代表として三重県出身のメンバーがリーダーシップを発揮してくれました。その後には、高校生サミットや子どもふるさとサミットを開催しました。サミット本番では県立相可高校の生徒たちが配偶者プログラムで食事を提供したり、植樹などでは地域の小学生がお手伝いをしてくれたり、ジュニア・サミットの受入にあたっては高校生たちがいろいろなおもてなしをしてくれたりして、本当に近年稀に見る、次世代の子どもたちが大活躍するサミットであったと思っています。これを一過性に終わらせることなく、県の人づくりにしっかり生かしていきたい、そういう思いですので、忌憚のないご意見を賜ればと思っています。また、上堀内君には、後ほど感想なども述べていただければと思いますので、何卒よろしくお願ひします。

サミットの経済効果などをいろいろ言われたりします。もちろんそういうものも大切なのですが、次世代の子どもたちが未来を決める、そのときに役に立つ材料を提供できた、あるいは、未来に前に向かっていくための自己肯定感とか達成感を味わう機会となったことは、極めて大きいことでもありますし、地域の経営者たる私も、知事としましても、人材が育っていくことは大変重要でありますから、人材のモチベーションを高めるという観点からも大変重要なことで、経済効果と比べても大変大きな効果だったと思っていますので、ぜひともそれを生かしたいという思いです。みなさんの忌憚のないご意見を賜ればと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

◆戦略企画部長

これより議事に入らせていただきます。

本日は「伊勢志摩サミットの成果の次世代への継承について～郷土三重を知り、グローバルに考え、これからの社会で活躍する力を育むために～」について、ご議論いただきたいと考えています。

なお、本日の会議は公開で行うことを報告します。

では、事項書に沿って進めていきます。まず、資料の説明をする前に、先ほど知事の挨拶にもありましたように、本日は、4月に桑名市で開催されたジュニア・サミットに参加いただいた上堀内陸王さんにお越しいただいています。ジュニア・サミットに参加して感じられたことなどについて報告していただきます。その後、事務局から資料の説明をして、みなさまにご議論いただく予定です。上堀内さんには、報告の後も残っていただき、議論の際にも必要に応じてコメント等、述べていただきたいと思っています。それでは、上堀内さん、よろしくお願いいたします。

☆上堀内陸王さん

ジュニア・サミットに参加して感じたことは、ディベート力とコミュニケーション力の必要性です。アメリカやヨーロッパでは、学校でディベートの授業があるようで、討論にとっても慣れているという印象を受けました。日本では、人前で自分の意見を述べるのは恥ずかしいと思ってしまう傾向がありますが、外国では全く違います。自分の意見を言わないのは何のアイデアもない無能な人だと思われてしまうそうです。自分の意見はどんどん積極的に述べるべきで、意見を述べるためには知識を増やすことも大事だと感じました。外国の子たちは、政治に関して関心が非常に高く、知識がとても豊富です。ホテルやバスでの移動中に雑談している時でも、アメリカの大統領選挙やテロの問題、移民の問題、イギリスのEU離脱などの話がどんどん出てきて、僕もニュースや本などで情報収集していたので、自分なりの意見で同世代と語り合えてとても楽しかったのですが、知識を持つことは大事だと実感しました。日本でもようやく選挙権が18歳以上となって、僕たちの世代にとっても今まで以上に政治が身近なものとなったので、選挙権年齢の引き下げをきっかけに日本の若者が政治により関心を持って、いろんな世代の意見が尊重される政治になることを期待しています。

踏まえ、広島県を含めた県内外の高校生等により、参考資料2のとおり地球温暖化防止のために私たちができることなどについて、活発なポスターセッションが行われました。資料3をご覧ください。児童生徒のアンケート結果について、かいつまんで説明します。

まず、1のジュニア・サミットについては、語学力以外の部分も注目に値すると思われまふ。上堀内さんの感想にもありましたが、自分の意見を根拠をもって発言したり、言いたいことをシンプルにまとめたり、Win-Winの関係を意識できるバランス感覚、指示される前に行動する力等が必要であり、完璧な英語でなくても構わないという意識付けであるとか、日頃から時事問題に取り組む機会を増やすことなどが挙げられています。

また、2の交流行事の参加者については、三重県の良いところの再発見・新発見、あるいは同世代の世界の仲間たちの視点、英語以外にも含めた多言語への興味・関心、さらには雑学も、豊かな話のうえでは大切、などの感想があります。

3の高校生サミットでは、やはり意見を主張する積極性だとか、時事問題に対する関心の必要性が多く挙げられているところです。4の子どもふるさとサミットでは、小中学生が対象で、特に小学校6年生の参加が一番多かったわけですが、自分の地元のこと、あるいは県内でも知らないことが、まだまだたくさんあることが分かった等の感想が挙げられているところです。

それでは資料1にお戻りください。4ページです。6のサミット公式行事の中でも、植樹の手伝いですとか、配偶者プログラムでの昼食のおもてなし、「伊勢っ子」の踊り等による交流も行われました。

その他全体として、外国語の案内ボランティアとしても高校生が多数活躍したほか、順次発行している「ふるさと通信」の伊勢志摩編を、英語版も含めて作成しました。また、参考資料4ですが、宇治山田商業高校による英字新聞での魅力発信も行われました。

今後の取組としては、9に例示しています。サミット効果というのか、直近では留学の応募倍率も盛り返してきた兆しもありますが、いきなり留学というのは多少ハードルが高いという声も聞くところです。そこで、国費にはない新たなメニューとして、まさに今週、県独自に短期の海外研修旅行を実施しています。また、国際地学オリンピックが三重県で開催されるという絶好の機会がありますので、ここで世界の高校生との交流を行う予定です。また、発達段階を踏まえた英語キャンプという英語漬けの環境を味わう取組や、主権者教育という観点も加味した、中学生が地域や社会の課題を知り、解決に向けてグループで取り組むプレゼンだとか、郷土三重の魅力を英語で発信するコンテストの実施、さらには大学生版のサミットの開催、インターハイでのおもてなしの検討等を挙げています。

なお、時間の関係上、詳細は省略しますが、参考資料5として「グローバル三重教育プラン」を付けています。同プラン等に基づき従前から取り組んでいる、グローバル教育や郷土教育の全般的な取組状況については、資料2をご参照ください。例えば、到達目標を「見える化」した、いわゆるCAN-DOリストの作成だとか、英語の全般にわたる授業改善の方策だとか、高校が多いですが、地元と連

携した特色ある実践的取組等について記載しています。

以上を踏まえて、資料4をご覧ください。論点として、伊勢志摩サミットを一過性のものとせず、レガシーを次世代に継承するため、「郷土や世界への理解を深める取組」だとか「今後の社会で価値観の異なる多様な人々と協働する力の育成」について、今後どのように取り組むべきかについて、ご意見をよろしく願います。

◆戦略企画部長

それでは、論点を踏まえて、これから意見交換に入りたいと思います。

○前田教育委員長

2ヶ月経ちましたが、伊勢志摩サミットの大成功おめでとうございました。そしてお疲れさまでした。ご慰労申し上げたいと思います。心からお慶び申し上げます。それから、上堀内さんは、夏休みなのにありがとうございます。私も、こういう会議とか打ち合わせの場に出させていただくことが時々あるのですが、一番緊張するのが学生さんの前で発言する時です。あうんの呼吸とか、行間を読めとはいかず、きちんと襟を正してしゃべらないといけないと思うので、通常の総合教育会議もそれなりに緊張しているが、それとは違った緊張があります。

今から申し上げることは二つあります。一つは、私の感想もひっくり返す思いと、もう一つは、せっかくの機会なので上堀内さんへの質問です。質問を通して、体験者として、これからの教育への「こんなふうにしたらどうか」などの意見をもらえると嬉しいです。

まず、上堀内さんの発言の中で、日本人はディベート力、会話力が必要あるいは乏しいとありましたが、私も常々そう感じていました。国の成り立ちみたいなことも影響しているのかどうか分かりませんが、会議で意見を交わすという、どうしても順列があると思うのです。その会議の中での肩書であるとか年齢であるとか経験であるとか。一番楽なのは、その会議の場で一番多い意見に「うん、うん」と言っておけば楽。そこで、対論、異論を述べるというのは本当に勇気が要ります。私も経験してきました。

ところが、社会へ出て生きていくうえでは、対論、異論、自分の意見を言うことが最も大事だと思います。そのことで、はね返りみたいなことがあるかもしれませんが、それもあえて受けるというぐらいの思いがないと、言えないと思う。それから、知識を持つことが大事で、意見を言うことは知識を持つことであるということも、全く同感。では、どうやって知識を持つか。学校で勉強する、あるいは自ら勉強する、先輩に教えてもらう。もっと必要なことは、興味を持つことだと思います。興味が、知識を持とうという汗をかくことへのエネルギーとなっていくのではなかろうかと考えます。興味を持てたら、学校の先生や親や先輩に言われなくても、自ら調べるということにつながっていくのではなかろうかと思っています。どう興味を持てるかということが一つのキーワードになると思っています。勇気を持って自分の意見を言うことは、ジュニア・サミットというせっかくの機会が学ばれ体験されたことなので、これは非常に重い貴重な意見だと思いま

す。これからも多分、発言しないでおこうかと思うような場面に遭遇するかもしれませんが、そこはあえて発言してください。そういう人を、私は応援したいと思います。余談ですが、私は会社を経営しているので、会社の中で社長の私が一番偉い人ですけど、肩書のない、まだ入社間もない人の意見を必ず求めます。自分からは意見を言わないので、知りたいのです。肩書のある人、責任のある人ほど、みなさんの意見を知りたいのです。だから勇気が要るかもしれませんが、その会議の主催者は自分の意見を求めているのだということを勇気にして、発言してほしいと思います。

それから、語学力の必要性。このことは私も40年前から言っているのです。なかなか地元では果たせなかったのですが。外国の人たちと直接触れ合って、それこそ痛感されたということでしたが、さらに次のステップへ行っていたらと思う。自分で見る、現地を見るということも、やってもらいたい。本を読んだり映像を見たりすると、自分の生の目で見るのとでは、感じ方が全然違うと思うのです。まだまだこれからいろんな機会があるかと思いますが、自分でその機会をこじ開けてでも、体験していただきたいと思います。

最後に一点。語学力を高めるために、学校教育以外に何か自ら努力していることがありますか、という質問です。

☆上堀内陸王さん

Skype（スカイプ）で外国人の先生としゃべるということを、小さい頃から、小学校高学年ぐらいからやっていて、学校以外で英語を使うということ、それですかね。英語でしゃべりたいというネット上のサービスがあるのですが、それで外国人の先生としゃべったりします。あと、洋書を読むのが好きなので、洋書を読んだりします。あとは映画を英語で見るとか、です。

○前田教育委員長

触れる、興味を持つということが学校教育以外でも、語学力を高めていくことにつながっていくと思います。これからも頑張ってください。

最後にもう一点。サミットの総括が行政レベルでも、我々民間レベルでもいろいろされています。いろいろな意見があることも耳にしていますが、私の見方を最後に申し上げたいと思います。私は大成功であったと思っています。その理由は、一つは三重で、伊勢志摩で開催できたことが大成功の理由の最たるものと思います。もう一つはテロがなかったこと。その直前も直後も、今、テロが新聞、テレビを賑わさない日はないと言ってもいいくらいです。準備をおさおさ怠りなかったことが、そういう集団に邪な気持ちを起こさせなかった、むしろ封じ込めたことで起きなかったと思います。この二つをもって、私は大成功だと思います。

それから、議会でもサミット開催前からポストサミットをどうするかと議論されています。これは今日、上堀内さんが来てくれていますが、私はある意味こういう若い人たちの責任でもあると思います。それから、我々民間の人間がサミットをどうつなげていくか。今回、行政はサミットを伊勢志摩へもってきてくれて、大成功で終わった。これをどうつなげていくか、発展させていくかというのは、

単に行政の問題だけではなく、それぞれの住民であり企業であり、あるいはこういう若い学生さん、みんなでサミットをきっかけとして発展的に継続させていくことを、みんなの課題として取り組んでいくべきだと思います。一旦これで終わらせていただきます。

●鈴木知事

上堀内君が洋書を読むと言ったけれど、読むようになったのは、なぜですか。

☆上堀内陸王さん

小さい頃から英語が好きだった、というか、小さい頃は何でも楽しんでやるので、それをきっかけにずっと読んできたような気がします。

●鈴木知事

ご両親がよく読んでみえたとか、家の中に、身の回りに洋書がたくさんあったというわけではなくて、ですか。

☆上堀内陸王さん

両親は、そんなに英語が得意なわけではないのですが、それでも結構、洋書を買ってくれたりしました。

●鈴木知事

やはり、そういう興味の入口っていうものがあるわけですね。

○前田教育委員長

これからは孫へのプレゼントは英語で書いた絵本を贈ります。

●鈴木知事

学校教育以外でどんなことをしているかという質問に、洋書を読むのが好きと答えられたとき、この場にいる大人たちから「ああ、そうなのか」みたいなあきらめ感があつた。

☆上堀内陸王さん

興味を持ってやるには、英語をしゃべれて、楽しいとか得だと思えるような経験が必要だと思います。

例えば留学であれば、自分で海外に行くというのは絶対に楽しいことなので、今回のジュニア・サミットでもそうでしたが、そこに向けて、みんな英語を勉強したりした。楽しいことじゃなくても、得意になることがあると、もっと興味も湧くのかと思います。

○森脇教育委員

上堀内さんのような高校生がたくさんいればいいと思います。一方で、大学の教員をしていて感じることは、どうも学生が海外にあまり興味関心がなくて、海外に行きたくもないという雰囲気があるような気がしてなりません。13年くらい前に、中国の天津、北京に学校を見に行くから一緒に行かないかと周りの学生に

声をかけたら、なんと30人ぐらい集まって、費用の補助もない時代だったのですが、一団で行った覚えがあります。今は海外に行こうと言ってもなかなか学生が集まらない。日本留学生支援機構、JASSO（ジャッソ）といいます。ところが5万円ずつ旅費の補助をしても、なかなか集まらない。こういう時代になってきて、大学生の内向き志向みたいなことを感じる。大きなグランドデータを調べてみても、日本人の海外留学状況が落ちてきていることもあるし、OECD（経済協力開発機構）の報告では33か国中ワースト2位という状況である。要因はいろいろが考えられると思います。例えば就職のインセンティブにならないとか、アメリカの学費がむちゃくちゃ高いとか、あるいは安全の問題などいろいろあると思うが、勇気とか挑戦する心とか、あるいは寛容な心とか、気持ちが内向き志向の中で、萎えてきているのではないかという問題意識を持っています。

そこでお聞きしたいのですが、上堀内さんは、きっと、語学を生かしながら友達を作ってインターナショナルに活躍できる人材になるのだらうと思いつつ聞いているのですが、周りの高校生を見たとき、海外のいろんなことに興味を持つとか、ぜひ行ってみたいという雰囲気があるのかどうかについてお聞きしたい。大学はどうも何か内向き志向で、保守的ながら、本当の保守ではない。現状維持的な、何となくの保守的な感覚とかが蔓延していて、次代を担う今の高校生の一般的な状況で、感じていることがあればぜひ教えていただきたいと思います。

☆上堀内陸王さん

内向き志向という点では、確かに、別に外国へ行く必要ないし、みたいな感じがあったりします。海外旅行に行っている子をうらやましいと言ったりもするのですが、行きたくない、そこまで考えていないという人も多いのかなと思ったりします。

日本は島国なので、別にずっと日本で暮らしていけるし、みたいな感じもあつたりする。

○岩崎教育委員

引き続いて、せっかくですから上堀内さんに三つくらい聞きたいと思います。

一つは、政治に関して意見を求められたとのことでしたが、外国人としゃべっていて、例えばイギリスのEU離脱とかアメリカ大統領選のトランプ氏とかの話で、国内で勉強していた情報と比べ、向こうから来た彼、彼女たちとしゃべっていて、こういう見方もあるのか、と思うことはありましたか。日本のメディアが伝えていないことを感じたのか聞きたい。例えば、EUの離脱で、こんな背景があったのかと分かったことはありましたか。

☆上堀内陸王さん

背景などは、あまりニュースでやらなかったりするので、海外の子に聞いて初めて、「ああ、そういう理由で言っていたのか」というようなことはありました。

日本はエンタメのニュースとかが多く、海外の政治などが報道されないという

傾向があると思いますが、海外では結構、選挙とかも盛り上がるので、みんな知っていて当然のことが多かったので、海外の子に聞いて、より詳しく、その背景まで知ることができたという面はあります。

○岩崎教育委員

日本では、深掘りをするような報道が少ないような気がする。

☆上堀内陸王さん

海外の子と話していて、そう感じることはありました。

○岩崎教育委員

それからもう一つ。三重県や日本について聞かれることが多く、例えば歴史について、改めて勉強しないといけないと思ったとのことだったが、具体的に何を聞かれて、パッと答えられなかったのか。

☆上堀内陸王さん

伊勢神宮の話で、神道のこととかです。宗教のこととか日本の神話については、あまり教わらないこともあって、上手く答えられなかった。日本は、無宗教の国だと思われていたりする。でも、神社とかが至るところに建っていて、寺とかもいっぱいあって、外国人から見たらどういうことか、と。クリスマスも祝っているし、一体何なのか、と言われたりもした。

○岩崎教育委員

それを説明しろ、と言われたわけですか。

☆上堀内陸王さん

難しかったですね。

○岩崎教育委員

三点目、3か国語以上しゃべれる子が多かったとのことでしたが、その中で日本語を勉強してきた子はいましたか。

☆上堀内陸王さん

いました。カナダの子が、少し日本語をしゃべることができたり、フランスとかイタリアの子は、日本人のハーフの子もいたので、日本語をしゃべる子もいました。それと、ちょっとした挨拶、いただきますとか、ありがとうとかを、どうやって言うの、といったことを聞かれたことはあります。

○岩崎教育委員

今、お話を聞いていて思ったことは、センシティブなものについて若いみなさんに対して判断させないようにしてきている気がする。18歳の選挙権の話で、選挙権の行使の際に、政治問題をどういうふうに高校レベルで教えるかというのが大きな課題になっている。対立するものについて公平に取り扱うことは、すごく重要なことではありますが、物の見方みたいなものまで踏み込んで教えることも、

今は何となくしづらい雰囲気になっている。そうすると、どんどん判断を停止して、空気を読むことだけを助長するような感じになってきているのではないか。だからニュースも、イギリスのEU離脱の話や、トランプがひょっとしたらアメリカ大統領になるかもしれないという話も、日本の報道を見る限りではよく分からない。

その背景を、きっちりと教える授業が欲しいという気がする。

☆上堀内陸王さん

授業でもそうですし、メディアでも。

○岩崎教育委員

メディアリテラシーの問題だと思う。

それから神道について。外に行って三重県の良さを知る、あるいは「私は三重県の出身で、三重県で育ちました」「三重県で学んでいます。この前サミットがありました」と言うと、必ず聞かれる質問になる。そのときにどう扱えばいいか、これまた難しい。だからと言って、おじけづくわけにもいかない。だから、勉強の方向を示していくという感じかと考えます。あとは、個人がその興味に応じて、いろいろと勉強していく、自学自習の選択肢を増やすぐらいのことしか、今のところ考えられない。三重県の、特に神道の話は、教育と絡めていくのは非常に難しいけれども、考えておかなければいけない部分だと思う。それは我々大人があえて避けてきた部分を、どういうふうにするのか、ということになるのかと思います。

言われたように、国同士が理解し合うのは難しいが、人同士は上手くいくはず、というのは確かによく分かる。大人たちのサミットの宣言について、どう判断されますか。

☆上堀内陸王さん

ジュニア・サミットで自分たちが環境についてというテーマでやっていたこともあり、経済の話が少し多かったような気がする。安倍首相も「リーマンショック以降の」とかよく言っていたから、経済の話が多かったのかと思う。ただ、他の国の首脳が、それほど経済に危機感を持っていなかったこともあり、あまり価値観が合っていなかった印象があります。

○岩崎教育委員

いい機会だったとつくづく思いました。今いろんなプロジェクトを考えていただいていますので、ぜひ引き続いてやっていただければと思います。あと一点だけ、県単でやる高等学校制度の海外研修旅行について、結構参加者がいるのでしょうか。

◆教育委員会事務局次長(学校教育担当)

約2倍の倍率です。

○岩崎教育委員

2倍もあったことは本当に嬉しく思います。この事業は何年続けていく予定なのか。県内の自治体でも、いろんなところで市町の単独事業で派遣したりしているが、これは県内の自治体の悪いところなのだが、行きっぱなし、行かせっぱなしである。一方、ある町では、経験者が事前学習に参加して、最後の取りまとめもその経験者が代々引き継ぐ形で行っているという、いい事例がある。行く時の支度も事前の準備も、それから最後の報告も、役所が手を入れるというのではなくて、経験者が上手く代々つないでいく仕組みが欲しいと思います。

最後に、先ほど知事の挨拶の中でも、経済効果よりも人材が育つという効果をとっていましたが、去年、大学のゼミの連中と沖縄へ行った時に、沖縄サミットの終了後に経済効果を出したのか、と聞いたら、出してない、ということだった。それぐらいつかみづらいものであることは確かである。それならば、人材は育つということの効果も、三重県は、より発揮すべきだろうと思います。経済効果については「それなりにあった」でいいんじゃないかと思っています。

○柏木教育委員

上堀内さんの話を聞かせていただいて、興味という種を、三重県の今の小学生たちにも植えてあげたいと痛感しました。サミットを一つのきっかけとして、子どもたちの教育にどう生かしていったらいいのかと考える中で、サミットが伊勢志摩で行われたという大切なことを、子どもたちにしっかり伝えるように、例えば「サミットの日」を作ってもいいのではないかと思います。子どもたちに、こういうことがあったのだということを、しっかり教えてあげる。そして、その意味と意義を伝えてあげて、子どもたちにその種を芽吹かせてあげたいと感じました。今回、子どもたちがとてもすばらしく、いろんなことをされたというのは聞いていますが、子どもたちに一番近いところにいる教員の方々が、サミットの意義をどういうふうに認識しているのかと考えます。教員が子どもたちの一番近いところにいるので、教員にもサミットの意義を研修会で伝えて、大切にすべきことを子どもたちにも教えてほしいと痛切に思います。

最後に質問ですが、学校教育の中でとても意義があった授業とか、課題授業でもいいのですが、いろいろあるとは思いますが、自分の中で何が一番良かったと思いますか。

☆上堀内陸王さん

たまにですが、ALTの先生方と話すことがあり、そういう時に、海外を見てみたい、という気持ちが強まりました。ALTの先生は、ずっと学校にいるわけではないので、そんなに話す機会もなかったのですが、そういうところで興味が芽生えたと思います。

○柏木教育委員

環境問題など、語学以外で何かありますか。それとも、やはり自分で調べたことが多くて、学校の授業では、ちょっとなかったでしょうか。

☆上堀内陸王さん

言いづらいけど、そうですね。自分で興味を持って勉強したというのが大きい
です。ジュニア・サミットに向けて勉強したことが多いので。

○柏木教育委員

今回はジュニア・サミットという大きなものでしたが、それをもっと小さな単
位で、子どもたちが切磋琢磨して勉強していく機会を作ったら、もっとチャンス
の幅は広がっていくと思うのですが、どうでしょうか。

☆上堀内陸王さん

せっかくジュニア・サミットが行われたこともありますし、もっと小規模など
ころでやっていくというのは、重要かと思います。

○柏木教育委員

応募してくれた高校生が43名もいたと書いてあるので、今後そういう子たちに
続く、意識のある子どもたちを三重県で頑張らせて育てていくことが必要なのでは
ないかと思います。

◆戦略企画部長

委員のみなさん、補足いただくこととかございませんでしょうか。

○前田教育委員長

少しぶしつけな質問です。答えにくかったら、ノーアンサーでもいいのですが、
海外の同じ年代の人たちと触れ合って、それから日本の仲間もいたわけですが、
同じ年代で比べてみて、日本の高校生の優秀だと思うところ、反対に少し負けて
いる、劣っていると感じたところがありますか。

☆上堀内陸王さん

日本は、学校の勉強はすごくできると思います。しかし、実生活というか、政
治に関することだったり、そうした興味自体が少し薄いのかなと感じました。

●鈴木知事

日本で、三重県で開催したということもあるのですが、彼らはすごクリーダー
シップを発揮してくれた。外務省からは「海外の子は絶対に温泉なんて入りませ
んから、誘うのは止めてください、プログラムに入れるのも止めてください」
「ハマグリとか、貝なんて食べませんから」と言われていたのですが、上堀内君
たちが「温泉あるから行こうぜ」とみんなを誘ったり、ハマグリを焼いて「美味
いから食べてみるよ」と、みんなで食べたりしていた。

彼は謙遜して言わなかったですが、それほど日本代表のメンバーはリーダーシ
ップを発揮して、全体のムードメーカーになってくれていた。

○前田教育委員長

たまたまハマグリの話題が出ましたので言いますと、自分は桑名生まれ桑名育
ちで、桑名に知り合いが結構いるので、ハマグリ関係者から生の声を聞いたので
すが、非常に喜んでいました。彼らは、ハマグリの復活にもものすごく一所懸命に

なっている中で、こういうことがあったことは、本当に嬉しかったと。

☆上堀内陸王さん

事前研修で「はまぐりプラザ」へ行き、いろいろ教わって、ちゃんと美味しさを伝えられたのかと考えていたので、本当にありがたく思います。

○前田教育委員長

最後に一つだけ。

私や知事や教育長たちと上堀内さんたちとで、何が違うかということ、あなた方は失敗できる。若い人たちによく言うのですが、その年齢であれば失敗は許される。失敗の数が多ければ多いほど、次なる反省、成長につながると思う。年齢や立場が上がると、その最たるものは知事なのですが、言葉一つとっても考えに考え抜いて発言しないと「それはちょっと失言でした」というのは許されない。君たちはまだ失敗できる。失敗して覚えることの方が多と思う。やり直しもきく。挑戦しないと失敗もないわけですから、これから大いに挑戦して、大いに失敗して、大いに軌道修正して成長して行ってほしいと思う。青年にできて、我々にできないことはいっぱいあり、その最たるものだと思いますので、これからも頑張って失敗して行ってください。

○森脇教育委員

包容力を持って大人たちが失敗を眺める、見守る、そういう雰囲気がないと、なかなか失敗できない。海外に行くことを例にとると、最近ではテロなど安全・安心上の問題があり、全てのリスクを回避していると海外なんて全然行けなくなってしまう。リスクを伴うことであっても挑戦してもらおうという雰囲気が日本の社会にないと、若い人が挑戦しづらいのではないかと思う。原理原則みたいなものを作っていないといけないのではないか。例えば、我々の社会は、救急車が猛スピードで走ることや赤信号の交差点を通ることを許容している。それと同じように、全体的な雰囲気として、ある価値を実現するためのあるリスクは、社会として許容範囲だと認めないと、海外に行ったり挑戦したり、なかなかできない。逆に、管理主義のもとに、社会がどんどんリスク回避の方向に流れており、がんじがらめになってきている雰囲気もある。何とかしてどこかでそのことを共有、と言うか共通認識を作っていく必要があると、今すごく痛切に思っています。

◆戦略企画部長

それではここで、貝ノ瀬特別顧問にも一言お願いいたします。

◇教育委員会特別顧問

上堀内さんのお話、大変勉強になりました。よく冗談で、国際会議で議長国が苦勞するのは、日本代表にいかにかたくさん発言させるかと、インド代表にいかにかしゃべらせないかということだと言われますが、やはり日本の農耕民族の文化も随分、影響しているのだろうと思いつながり聞いていました。かつてベストセラーになった山本七平さんの『日本人とユダヤ人』で、空気を読むとか、あうんの呼

吸とかが、日本人に特徴付けられているということで随分話題になりましたが、やはりいまだに続いている感じもあります。しかしここで、ジュニア・サミットを機に、潮目が変わるといふか、潮目を変えていかないといけないのではないかなと思う。少なくとも三重県から変えていく。実をいうと、東京の方でもこのサミットについていろいろ報道がたくさんされて、私もテレビ・新聞で拝見していましたが、首脳の動きとか政治的な面、経済的な面での報道が多くて、ジュニア・サミット自体はほとんど報道されていない。大変もったいない話で、これをレガシーとして引き継いでいくということになると、もちろん全国に発信するというのもあっていいのですが、少なくとも県内には、ジュニア・サミット日本代表の4人の方が先達になって、各地で報告がてら、タウンミーティングみたいなことで、各地域の同世代の人たちと話し合っ、我々の問題意識を深めていく。そして、どう改善したらいいか話し合われると、大きく潮目が変わっていくのではないかな。少なくとも三重から変わると思います。だから、サミットの成功というのは、むしろ、これからの営みにかかっている面があるのではないかなと思いました。

一方で、私たち日本人がシャイだとかいろいろ言われて変に納得したりしていますが、例えば選挙権が18歳に引き下げられて、参院選の時の18歳の投票率はほぼ60%近い。しかし19歳は50%に届くか届かないかで、10ポイントぐらいの差がある。つまり、18歳の子は、全国の9割以上の高等学校で、十分とは言えないにしても何らかの形で主権者教育が行われたことの成果が出ているのだと思う。そういう意味でも、やはり教育の力は侮れない。即効性はないかもしれないが、しかし今回の参議院選挙の投票率を見ても18歳の在校生たちに行われた教育の成果と、卒業してしまっった子たちの投票率は圧倒的に違うわけですから、やはり教育の力は大きいということで、私たち教育関係者は努力を続けていく必要があると思います。そういう意味では、上堀内さんが指摘された課題は、これから私たちが十分に乗り越えていけると思います。上堀内さんも少しお困りになったと言っていた、三重にいれば必ずつきまとう質問に、私たちが一定の回答を持たないといけないと思います。日本人は無神論だと一般的には言われています。でも神道のメッカである神宮があるし、神話も日本人として共有されているということですから、神道の思想とか、これからの生活とか生き方とかについて、大人の側も整理が必要なのではないかなと思う。微妙な問題だと曖昧にしておかないで、外国人は質問してくるし、子どもたちも上堀内さんも問題意識を持たれているので、子ども任せにしておかないで、整理し議論していく必要があると思う。

いわゆる八百万の神ということで、むしろ多様性を前提にした考え方が、そこにあるのではないかなと思うのです。だからこそ、世界でいろんな宗派对立、宗教対立がありますが、逆に日本こそが、そういう問題についてコミットしていける立場にあるという考えを持っていいのではないかなと思っています。まだ勉強不足なので中途半端な話で申し訳ないのですが、三重の大きな特色として、そういう哲学を持つことは、三重が全国発信していくうえで非常に大きな力になってくるのではないかなと思いました。だから、微妙な問題にしないことが必要なので

はないかと思いました。

上堀内さんは桑名市在住だということですが、義務教育は桑名市で受けたのですか。

☆上堀内陸王さん

小学校、中学校は桑名市の地元の学校でした。

◇教育委員会特別顧問

今回いろんな世界の人たちと出会う機会があり、様々な問題意識を持ったと思いますが、あなた自身、若者の一人として、将来的に、例えば大学はスタンフォードへ行ったとしても、この郷土三重を愛し、そして三重に尽くしていくために、例えばいつかは三重で何か仕事をするという考えを持ったりしていますか。そういうことも一考に値するのでしょうか。もしくは、全くそんなことは考えていないのか。そのあたりのことをどう思っているのか、率直なところをお聞かせいただきたいと思います。

☆上堀内陸王さん

やはり三重県にずっと住んできて、ジュニア・サミットに参加させてもらったわけですし、いろいろお世話になっているというか、愛着があるので、大人になって世界を飛び回っていたとしても戻ってきたいなと思うところはあります。

◇教育委員会特別顧問

セカンドステージで、三重で起業することなど考えたことはありますか。

☆上堀内陸王さん

まだ将来については、あまり考えてないというか、夢が決まっていないので。

◇教育委員会特別顧問

そうですね。ありがとうございました。

○山口教育長

知事からの提案を受けて「グローバル三重教育プラン」を作ったのが平成26年2月で、作ったときは、まさかサミットが開催されることは想定しておらず、平成26、27、28年度の3か年計画ですが、まさしくこのプランどおりだと私は思っています。主体性と共育力と語学力を重視している。3年間事業に取り組んで、海外留学が増えました。海外研修へ行くのも、不登校だった生徒だとか、飯野高校や松阪工業の職業系の生徒だとか、随分、層が変わってきた。これまでは進学校ばかりだったのが、職業系の高校も増えてきたというのは、学校現場で教員が背中を押してくれているのだろうと思っています。13校まで増えました。

このほか「みえ未来人（みらいびと）育成塾」として、知事や、日本マクドナルド元社長の原田泳幸さん、（F I A国際自動車連盟アジア代表委員の）井原慶子さん、白熱教室の千葉大学の小林正弥教授、（中部大学の）武田邦彦教授など、一流の講師を招いて講義を行った。子どもたちがそこで一流の考えに触れたこと

で、ディベート力、コミュニケーション能力が増えたのではと思っています。ただ、悲しいかな、上堀内君も言ったように、知識がない。あるいは、自分をしっかりと押し出すだけの力を与えていない。そこは、我々の目標は達成できなかったと考えます。機会は与えたけれども、ベースとなるものをしっかりと身に付けさせる必要があると思っています。

そのためには、英語教員の英語力が重要で、教える側として、積極的な語学力を身に付けさせる必要があると思っています。白熱教室等の講義の中でも、伊勢神宮や鈴鹿サーキット、赤福など、三重県の有名なものを紹介せよという一コマがあったのですが、きちんと紹介しきれていない。「赤福は美味しい」とか「鈴鹿サーキットでこんなレースがある」とか「伊勢神宮は日本人の心のふるさとだ」というようなことを英語でしゃべるのですが、伝えきれていない。歴史を教えることも大事なのですが、歴史だけ、知識だけではだめなのです。その人の人格形成に、この郷土がどう関わったのかということが、一番大事なのではないかと考えます。自分を育んだ郷土とは、こんなところなのだということをしっかりと言えないと、外国の人たちには通じないのではないかと考えています。

大切なのは共通性と多様性だと思っています。共通性というのは、三重県人あるいは日本人ならば、ベーシックなところは必ず知っておくべきことです。多様性というのは、一人一人の人間が、それぞれ個性を持って生きていくということです。そこをきっちりとすみ分けをさせながら、学校教育をやっていく必要があるのではないかと考えています。「グローバル三重教育プラン」が3年目を迎えるにあたって、今年度総括をして、次のステージに上がっていかないと、この3年間は何だったんだ、となってしまいます。ジュニア・サミットや高校生サミット、子どもふるさとサミットなど、様々な手を打ってきましたが、きちんと総括をしないと、次へつなげられないのではないかと考えており、チャレンジする心などの「主体性」、共に育つ力、共に育む力の「共育力」、そして「語学力」の3つのキーワードが、やはり大切なのではないかと考えています。

学校現場を任されていて、一番危惧しているのは、今後、全国学調で英語が実施されるので、転ばぬ先の杖をどうやって突いていくかということです。現場に誇りを持たせて、これまでやってきた三重の教育は良かったのだということを、しっかりと方向付けする準備をしていきたいと思っています。

●鈴木知事

上堀内君から、3か国語以上しゃべれないとだめだという話がありましたが、サミットでこういう場面がありました。神宮で歓迎行事をして、安倍総理が宇治橋前で一人ひとり首脳をお迎えし、首脳は参集殿に入っていく、参集殿では岸田外務大臣と両副長官と私が一人ずつお迎えをしました。フランスのオランド大統領、EUの2人、カナダのトルドー首相、イタリアのレンツィ首相、イギリスのキャメロン首相、ドイツのメルケル首相、アメリカのオバマ大統領という順で入ってきた。フランス、EU、カナダに続き、イタリアの首相が入ったところまではフランス語でしゃべっていたのが、イギリスの首相が入ってきた瞬間、みんな

英語に変わった。そういうシーンがあったので、まさに上堀内君が言ったように、3か国語以上しゃべれるということが大切なのだと、改めて思いました。とても印象的なシーンでした。

また、サミットではこういうシーンもあった。神宮で植樹をしたとき、9人の首脳と、僭越ながら私も入らせていただき、10名で植樹をした。スコップを渡したりするお手伝いを、伊勢市、志摩市、鳥羽市、南伊勢町、度会町、大紀町、玉城町の7市町の20人の小学6年生、1人だけ5年生でしたが、その小学生がスコップを渡したとき、各首脳がそれぞれ何か話しかけていました。終わった後、「何を話しかけられたの？」とみんなに聞きました。どうですか、日本人の大人だと、大体、小学生に対しては「何年生？」とか「どこの小学校？」とか聞くことが多いように思います。あるいは、就学前の子でしたら「何才？」とか聞いてしまう。しかしあのとき「みんな何を話しかけられたの？」と聞くと、ほぼ全ての首脳が「What's your name？」すなわち「名前は？」と尋ねたという。つまり、相手が子どもであっても、人に対しては、属性などではなく、その子のアイデンティティとか個を重視するような言葉、そんな大人の接し方みたいなものが、もっと重要なのではないかと思った。それが、さっき上堀内君も前田委員長も言ったところの「自分の主張」につながっていく。自分を主張しても全く問題がないのだと。自分がアイデンティティを持っていて、こういうふうと考えていると主張することに意味があることを理解する。そういう環境と雰囲気づくりがすごく重要だと。とても小さなエピソードだったのですが、私はそこに海外のリーダーの素晴らしさを見たと思っています。

それから、大学生に関する制度を1つだけ紹介すると、「トビタテ！留学JAPAN」という国の制度で、半額を国が、半額を県内の企業様にお金を出していただいて、三重県は航空産業に特化していますが、中小企業にインターンシップをしてもらうものがあります。今回だとオランダ、フランス、アメリカに計5人、三重大学生や三重県出身の東大法学部の大学院生、高専の学生もいたと思います。今回が2期目ですが、「トビタテ！留学JAPAN」で留学した学生が全国におり、航空産業に特化したのは三重県だけですが、各地でいろんな産業の取組をしているので、今年度中にその子たちのサミットを三重県で開催する予定です。

また、前田委員長から「知識を身に付けるには、まず興味を持つことから」という話がありましたが、まさにそのとおりだと思います。加えて、知識をどう得るかとか、どう使うかのためでなく、考える力が基本的にないと、どういう知識を得たらいいのかが分からないと思います。例えばこの前、県庁職員を対象とした「若手中堅養成塾」でディベートをやらせましたが、たくさんのファクト、事実関係を並べるのですが、「それで？」という印象でした。「三重県は全国37位です」とか「三重県はこういうふうに減っています」とか「こういうふうに悪いところが増えています」という数字だけが並んでいて、それを論理的に説明する、論理構成力が弱いと感じました。人間に与えられた時間は限られており、勉強するタイミングも限られているので、自分にはどういう知識が必要なのか、自分がどういう主張をするために、どういう人生の歩みをするために、どういう知識が

必要なのかということを考える力が根底にないといけない。知識も重要ですが、そういう部分をもっと必要なのではないかと思いました。

それから、神道や宗教観の関係ですが、貝ノ瀬特別顧問が言ったような多様性の部分については、実は今回のサミット誘致にあたって我々が最も主張した部分です。もともと神道は、宗派も人種も性別も世代も超えて寛容に受け入れて共に生きていくという宗教です。だからこそ今、テロを起こす過激派組織などには強くあたっていくものの、一方でそれ以外の人たちが寛容に受け入れられて生きていくことが、世界平和に近づいていくので、そういう場所としてふさわしいこの伊勢志摩にサミットを呼んでほしいということ、誘致計画書の冒頭に記載し、そういう理念、一つの考え方として、整理できると思います。

それに加えて、三重県が生んだ偉人で、例えば松尾芭蕉は「不易流行」を唱え、本居宣長は「大和心」とか「もののあはれ」を唱えた。そういう、日本人の根底にある世界観は、神宮も含めて三重県にあるのだと、だからサミットを開催する場所としてふさわしいという言い方をずっとしていました。でもそれを言おうとすると、「不易流行って、大和心って、もののあはれって、何ですか？」というファクトを教育において整理する必要があると思います。

だから、神道の部分も、ただ単に「712年に古事記が編纂されました」「720年に日本書紀が編纂されました」というファクトだけを伝えるのではなく、例えば伊勢市の子どもたちには、「なぜ猿田彦神社にこれほどたくさん人が来るのでしょうか」「猿田彦神社はなぜ導きの神と言われているのでしょうか」ということを、神話の一部だけを切り取ってもいいので、ちゃんと教えてあげるといったことが必要だと思います。まず、考え方、見方の大前提となるファクトを整理し、あとは例えば熊野の子に「なぜ花の窟が日本最初の神社なののでしょうか」「この神話の元はなんのでしょうか」と問いかける。日本書紀や古事記にこう書かれているということはファクトだから、教育現場においてもそこは恐れず、ファクトは整理し、そしてそれにまつわるところは地域で伝えてあげることが大前提であることが重要ではないかと思います。そういうファクトを知っていれば、さっき上堀内君が言ったようなことは、「事実関係はこうだ」としたうえで、「それについて自分はこう思う」ということを後で付け加えればいいだけなので、少なくともファクトを知る機会、岩崎委員が言ったようにセンシティブなものを大人があえて避けるということ、ファクトを知る環境をちゃんと作ってあげる必要があるのではないかと、改めて思いました。

自分は人生であまり後悔したことがないのですが、留学しなかったことだけが人生の後悔の大きな一つなので、子どもたちに海外に触れる機会はたくさん作ってあげたいと思う。自分自身もほとんど毎日のように海外の人と接する機会がある。一昨日はプライベートで伊勢神宮にお宮参りに行ったのですが、たまたまカナダ最大の旅行雑誌の記者たちがいて、話をした。昨日は紀北町の灯籠祭りに行ったが、そこに松阪在住の国際結婚された方々がいて、話をした。一昨日には、香港のイオンの社長が来ていた。留学に行かなくても、毎日仕事をしていると、いろんな場面で工夫をすればそうした機会を作れると思うので、大人もそういう

意識が大事だと改めて思いました。

◆戦略企画部長

今日の議題については、これで終了しましたが、せっかくの機会ですので、この際、何か意見交換をしておきたいことがございましたら、お願いします。

○前田教育委員長

一つだけ。

上堀内さんの発言は、ご自身で思っている以上に影響力が大きい。多分、今はまだ感じられてないかもしれませんが、ジュニア・サミットに日本代表で出たという事実は、影響力が大きいと思います。決してそのことで、ご自身のこれからの発言や行動がしばられるものではありませんが、自分には発信できる力があるということは、改めて自覚してもらいたいと思います。大人が発信するよりも、君たちのような青年が発信する方が、大人に対しての訴求力がある場合があります。これから自信を持って進んでいってほしいと思います。

それから、地方活性化とか人口減少、流動などで、三重県ではもっと人口を増やそうとしていますが、若い人たちには外を見てほしい。結婚して三重県へ帰ってきて、三重県で暮らして、三重県で家庭を持って、などと都合のいいことは言えない。一方で、桑名で生まれて桑名で育ったということは決して消えない事実です。将来、海外も含め三重県以外に住むことになるかもしれませんが、遠くにおいても三重県に思いを馳せてくれるような、そんな教育を我々は施していかなければいけないのではないかと思います。三重県に貢献することは、住むということ以外でもできると思います。どんな形であろうと三重県のことをこれからも忘れないように、発信し続けてほしいと思います。

●鈴木知事

本当に彼らが頑張ってくれたこと、彼らがきっかけで巻き起こした動きが、地域にいい影響を与えたり、いろんな歴史的な事実を生んだようなこともあった。

桑名は合併して10年経つのですが、石取祭の山車が初めて長島に入った、あの橋を越えたということ、長島の人も桑名の人も、桑名が一体となった大きな出来事だと言っていた。みんなが積極的に、果敢にチャレンジすることで、地域の新しい歴史を塗り替えたり生まれることもあるので、どんどんやってもらったらいいと思うし、人間の記憶は風化してしまうので、いろんなディテールが起こるが、それを心に留めたり、書き記したりしてほしいと思います。

ジュニア・サミットの報道について、東京の方ではちょっと少なかったかもしれませんが、東海圏は少なくとも前回の千歳の時よりは相当多くて、桑名市の試算によれば、パブリシティ効果で約2億円ということになっています。千歳の時はサミットと同じ日に開催したので、より埋没してしまったのですが、今回は1ヶ月前に開催したので、結構、準備段階から、地域の、東海3県のメディアに非常に取り上げていただいたので、それをさらにこの後も、こんなことがあったんだよ、という後のストーリーみたいなものを、東京とか含めて、いろんな情報発

信に使っていかないといけないと思っています。

我々としては、次世代に対するすごくいい経験ができたので、国内外、県内外からたくさん三重県に教育旅行に来てもらうような取組をしっかりとやっていきたいと思っています。これは観光局も頑張りますが、教育委員会の横のつながりで、いろんな人たちに「三重県に教育旅行来るといいですよ」ということを、全国の教育長会議などで、山口教育長や課長たちがチラシを配ったりしてくれるとありがたいと思います。

◆戦略企画部長

上堀内さん、委員長や知事から、またコメントがありました。今日はジュニア・サミットに参加した4人を代表して来ていただいたわけでもありますので、あなたとしての最後のコメントでもいいですし、他の3人の分も含めてということでも構わないので、一言お願いします。

☆上堀内陸王さん

ジュニア・サミットに参加して、先ほど言われましたように影響力もあると思うのですが、責任も伴うと思います。ジュニア・サミットでの経験を三重県の中でも外でもどんどん伝えていかなければいけないと思っています。他の国の子どもたちも、また日本に、三重に来たいと言っていたので、ぜひそういう広報活動のようなことを、もっといろんな人に伝えたいです。ジュニア・サミット代表一同、三重県に集まって、ぜひ県と協力していきたいと思っていますので、またよろしくお願いします。

◆戦略企画部長

本日は限られた時間の中、貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。第3回の会議は9月頃に開催する予定です。上堀内さん、貴重な夏休みにお越しいただき、ありがとうございました。委員のみなさま、熱心なご議論ありがとうございました。これをもちまして、第2回三重県総合教育会議を終了します。

以上